第33回日本疫学会学術総会開催

第33回日本疫学会学術総会（2023年2月1〜3日，静岡県浜松市）が尾島俊之会長（浜松医大：右写真）のもと，「総合知による健康・幸福の向上」をテーマに開催された。本紙では「インパクトのある論文の書き方と広め方――SNS活用術」（座長＝国立がん研究センター・片野田耕太氏，大阪医薬大・伊藤ゆり氏）の模様を報告する。

研究者の卵にどのようなアドバイスをすれば，インパクトのある論文を書けるようになるだろうか。最初に登壇した井上陽介氏（国立国際医療研究センター）はこの命題を考察。「そもそも科学研究におけるインパクトとは？高インパクト・ファクターの雑誌への掲載なのか。どの雑誌に掲載されても1本は1本と考えることもできるのでは」と会場に問い掛けた。また，リサーチクエスチョンを出す工夫としては，臨床とつながり現場の問題意識をリサーチクエスチョンに置き換えること，博士課程修了後にそれまでとは異なる領域に携わり両者をつなぐような研究をすることを提案した。

谷口雄大氏（筑波大）は食物の誤嚥による窒息死の実態を明らかにした自身の研究成果（J Epidemiol. 2021［PMID：32536639］）をもとに，研究の着眼点から論文執筆，マスメディアでの発信に至るまでを報告した。氏は食物（餅）の窒息による死亡のニュースをみたことをきっかけに文献を検索したところ，先行研究の調査対象は単一の医療機関や地域に限られており，全国規模の報告がみつからなかった。そこで人口動態調査死亡調査票の活用を思い立ち，調査を実施。論文の公開に際しては，所属組織の広報室の助言を得つつプレスリリースを出したところ，各種メディアで話題になったという。この経験を踏まえ，「よく言われていることについて文献を確認する習慣」や「正確性とわかりやすさを両立した情報発信」がインパクトのある研究には重要であると考察した。

◆論文をどう広めるか，なぜ広める必要があるのか？

「学会やジャーナルの公式Twitterは論文の価値を上げる」。こう強調したのは，日循の情報広報部会長であり公式Twitterアカウント（@JCIRC_IPR）の“中の人”，岸拓弥氏（国際医療福祉大大学院）だ。Twitterでのプロモーションが論文引用数に与える影響は学術的にも検証されており（Eur Heart J. 2020［PMID： 32306033］），「Twitterは新たなCompetencyである」と認識されるようになったという（Circulation. 2018［PMID：30354418］）。日循は国内医学系学会初のTwitter指針を2019年に作成。学術集会会期中の公式アカウントによるTweetは4500件に達する（RT含む，2020年）。さらに氏は，今回の発表中に日本疫学会の学会誌Journal of Epidemiologyの論文Tweetを実演。学術活動のツールとしてTwitterを活用することを勧めた。

●シンポジウム「インパクトのある論文の書き方と広め方――SNS活用術」

最後に登壇したのは，BuzzFeed Japanの記者として医療情報を発信する岩永直子氏。SNSでの情報発信においては見出しとサムネイル（目を引く写真）が大切であると述べ，「社内で見出し投票を行う」「アクセスが伸びなければ何度も入れ替える」などの工夫を紹介した。また記事本文の工夫としては，読みやすさと感情に訴える表現を重視。「研究紹介にも体験談を組み合わせる」「研究がデータ化される過程で削除される人間の営みを肉付けする」などの試みを紹介した。

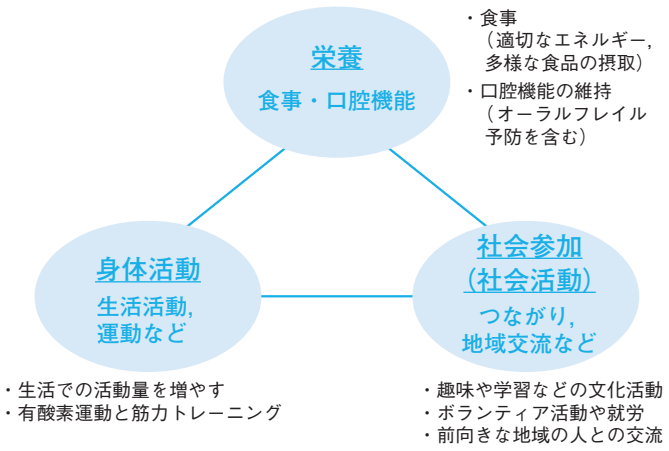
その後は指定討論者としてメディカルジャーナリズム勉強会代表の市川衛氏（株式会社READYFOR）も交えて討論。再び「論文のインパクトとは何か？」と問題提起がなされた。「教科書に載るような論文を書きたい。いつか世界のどこかで誰かを幸せにするために」という岸氏に対して，「研究者ひとりの力では無力だとしても目の前の課題に取り組むのが大事。誰かにバトンを渡せば歴史が証明してくれる」と井上氏が呼応した。何のために研究を行うのか，なぜその知見を広める必要があるのか。日頃の研究および広報活動を問い直すような討議が繰り広げられた。

視点

フレイル予防を効率的に行うポピュレーションアプローチの重要性

葛谷 雅文　名鉄病院 院長/フレイル予防啓発に関する有識者委員会 委員長

現在わが国はどの国も経験したことがない超高齢社会に突入している。今後はさらなる高齢者，特に後期高齢者の増加が見込まれており，高齢期においてできる限り心身の自立の維持をめざすこと，言い換えるといかに健康寿命を延伸するかが極めて重要である。



●図　フレイル予防につながる三本柱（文献1をもとに作成）

フレイルの対策は，今まで介護予防という観点でハイリスクな対象者をターゲットとしてきたものの，今後膨大な数の後期高齢者が増加する中でハイリスクアプローチだけでは十分でなく，広い裾野を考慮したポピュレーションアプローチが重要である。近年，専門職にはよく知られるようになったこの「フレイル」だが，国民に必ずしも広く周知されているわけではない。したがって，専門職だけでなく国民にこの概念を十分に理解してもらう。さらには，産官学民連携のまちづくりにおけるフレイル予防・対策の具体的な実践が，健康寿命延伸の鍵となる。

◆フレイル予防のポピュレーションアプローチに関する声明と提言の発表

上記の考えのもとに，一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会を事務局としてさまざまな分野の専門家からなる「フレイル予防啓発に関する有識者委員会」が構築された。そして，同委員会で議論を重ねた結果，2022年12月に「フレイル予防のポピュレーションアプローチに関する声明と提言」の報告に至った[1]。ターゲットは，行政や産業界をはじめ，フレイル予防のポピュレーションアプローチに幅広く取り組む担当者である。国民に向けた「自助・互助」の生み出す力を重視した健康長寿のまちづくりの実現をめざすべく，「フレイル予防推進会議（仮称）」の設置が計画されている。

本声明と提言ではフレイル予防のポピュレーションアプローチにおける行動指針として，「栄養（食事・口腔機能）」「身体活動（運動を含む）」「社会参加（社会活動）」の3本の柱を掲げ（**図**）[1]，フレイル予防を「自分事化」するための手法を示している。他にも，ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチを連携して行う自治体の試みも紹介している。今後はフレイルの一次予防だけでなく，自然に予防効果が生じる環境を整備するゼロ次予防の意識・啓発も重要だろう。

●参考文献・URL

1）医療経済研究機構．フレイル予防のポピュレーションアプローチに関する声明と提言．2022.
https://www.ihep.jp/frail-yobo/

●くずや・まさふみ氏/1983年大阪医大（当時）卒。89年名大大学院（老年医学）修了。91年米国立老化研究所に留学。名大医学部（老年科）助手，講師，助教授を経て，2011年名大大学院医学系研究科地域在宅医療学・老年科学分野教授。14年より名大未来社会創造機構教授を兼任する。22年4月より現職。フレイル予防啓発に関する有識者委員会で委員長を務める。

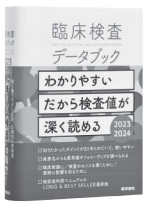
最新の医療情報は、日々の安心感と即戦力に。

今日の治療指針 2023年版
☑ 処方例が商品名・一般名併記
☑ 疾患頻度を3段階表示
☑ 診断の手がかりをアンダーラインで強調
● ポケット判（B6）　頁2208　2023年　定価：17,050円（本体15,500円+税10%）［ISBN978-4-260-05034-0］
● デスク判（B5）　頁2208　2023年　定価：22,000円（本体20,000円+税10%）［ISBN978-4-260-05035-7］
詳しくはこちらから

治療薬マニュアル 2023
☑ 警告・禁忌・副作用を含む全情報を収載
☑ 適応外使用の情報も随所に
☑ 後発医薬品情報がさらに充実
● B6　頁2848　2023年　定価：5,500円（本体5,000円+税10%）［ISBN978-4-260-05054-8］
詳しくはこちらから

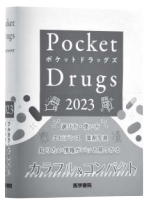
いずれも高機能なWeb電子版付。2冊併用なら、電子版が連携しグレードアップ！
●約1200疾患項目、薬剤約2万品目の情報から瞬時に検索
●［処方例→薬剤情報］［薬剤情報→関連疾患］がワンクリックで参照できる
スマホ・PCが“総合診療データベース”に大変身！

この1冊で大丈夫！　読みやすくて使いやすいロング＆ベストセラー



臨床検査データブック 2023-2024
☑ 知りたかったポイントがまとめられていて使いやすい
☑ 疾患名からも異常値やフォロアップを調べられる
☑ 臨床推論に／検査のセンスを磨くために／薬剤の影響を知るために
● B6　頁1200　2023年　定価：5,500円（本体5,000円+税10%）［ISBN978-4-260-05009-8］
詳しくはこちらから

添付文書情報＋オリジナル情報が充実した、ポケット判医薬品集



Pocket Drugs 2023
☑ フルカラーでほしい情報がすぐに探せる
☑ 主要な薬剤は写真も掲載
☑ 使用時のエビデンスがコンパクトにまとめられている
● A6　頁1216　2023年　定価：4,730円（本体4,300円+税10%）［ISBN978-4-260-04975-7］
詳しくはこちらから

医学書院